



令和7年9月12日
海上保安庁

トカラ列島周辺海域にて地震後初の海底地形調査を実施 ～地震活動の原因解明に資する基礎情報としての活用が期待～

海上保安庁海洋情報部は、活発な地震活動が発生していた鹿児島県トカラ列島の悪石島・宝島・小宝島の周辺海域において、令和7年7月31日から8月5日にかけて、水深や海底地形の変化を把握するため、測量船「平洋」^{※1}による海底地形調査を実施しました。今回の観測結果は、9月9日に開催される地震調査委員会に報告しました。

海底地形の変化について

令和7年6月21日以降、活発な地震活動が発生していた悪石島・小宝島間の海域において、今回取得した海底地形データと、地震発生前の2010年に当庁が取得した海底地形データを比較したところ、調査した範囲においては、海底火山の噴火や一連の地震活動の痕跡を示すような顕著な地形の変化は検出されませんでした。

噴気活動の確認について

悪石島・宝島・小宝島の周辺海域において、海中からの音の反射記録を解析した結果、宝島・小宝島周辺に加えて、海底の高まりである白浜曾根、五号曾根、五号曾根タコ、中ノ曾根タコの近傍において、水深120m～640mの海底から立ち上がるガス・熱水（噴気活動）が確認されました。

なお、この海域ではこれまでも同様の噴気活動が確認されており、この状況に関する専門家の見解は以下のとおりです。

京都大学火山防災研究センターの中道治久教授のコメント

「海底からの噴気は、海底火山である若尊カルデラ^{わかみこ}においても見られます。したがって、今回見つかった海底からの噴気は火山ガスの湧出を示し、火山活動の存在を示唆します。」

次頁から、今回の海底地形調査に関する解説コラムを掲載いたしますのでぜひご覧ください。

※1 測量船「平洋」



【船体要目】

就役年月	令和2年1月
総トン数	4,000 トン
全長	103 メートル
幅	16 メートル